# The 80th Emperor's Cup

## 2000-2001

－第８０回天皇杯　２１世紀初代チャンピオンへの道－

## THE ROAD TO THE FIRST CHAMPION OF 21 CENTURY

1996年アトランタオリンピック出場
1998年フランスワールドカップ出場
2000年　シドニーオリンピック出場
決勝トーナメント進出
アジアカップ優勝

Ｊリーグ発足後、着実にワールドクラスへの階段を登り続けているジャパンサッカー。２００１年は３月のＪリーグ開幕からサッカーくじ「ｔｏｔｏ」が始まり、海外の強豪国が次々と来日し日本代表との試合が予定されている。そして２００２年・・・。　２１世紀初のチャンピオンを決める第８０回・天皇杯は、日本サポーターが描くサッカードリームへの新たな第一歩となる。

http://www2s.biglobe.ne.jp/~sthcross/bssp0508.htm


Copy right(c)2000-2001:Kazuhide Yano/All right reserved.

京都パープルサンガは、今期Ｊ１・15位で降格が決定している。対するコンサドーレ札幌は昨年の悔しさをバネに今期は快進撃でＪ２の首位を勝ち取りＪ１への昇格を決めている。したがって今日の対戦は、昇格チーム対降格チームの対決という皮肉な対戦となった。札幌の方は、気分良く意気揚々と乗り込んでくる。一方、京都の方は、降格で気落ちしているとはいえ、ここはなんとしても意地を見せたいところである。もう一つの話題は、なんと言っても三浦カズ。先日、フロントから０円回答をもらい天皇杯を最後に京都を去る。京都のファンの前で有終の美を飾りたいところだ。

そんな見所も多いと思うこの試合だったが、スタンドの方はガラガラの３２０５人。そのうち約５００人は札幌のサポーターだったので、京都サポーターは約２０００人強。なんともさみしい限りで、さすが京都の人間。見切りをつけるのが早い。サッカーが盛んでない土地柄で、この客入りではフロントがスター選手を放出するのも無理はない。チームが存続しているのは京セラ、任天堂、ワコール等の地元大企業がスポンサーに控えているからで、市民球団ならとっくに消滅していておかしくない。京都のサポーターたちはフロントに不満を訴えているようだが、逆に感謝すべきではないだろうか？

３回戦　１２月１０日京都・西京極競技場

# 京都・パープルサンガ
*-Kyoto　Purplesanga-*

**VS**

# コンサドーレ・札幌
*-Consadore　Sapporo-*

**フロントからの０円回答で事実上の解雇となった三浦カズ。負ければこの試合が京都サンガにお別れとなる。相手は来季からのＪ１昇格を決めた札幌だけになんとか地元ファンの前で意地を見せたいところだ。**

さて試合の方は、前半5分、札幌ＤＦ森がオーバーラップして思い切りの良いシュート。それが、ゴールネットを揺らして先制パンチとなった。京都はボールキープはそこそこできている、決定的なチャンスを作れない。札幌ディフェンスのプレスが良く効いていたのもあるが、京都の攻めにもうひと味足りない。前半は１対０のまま終了した。後半も同じような展開で、京都に何度か決定的なチャンスはあったが、決定力不足。得点元のカズの足元には最後までトンピシャのパスは通らなかった。後


Copy right(c)2000-2001:Kazuhide Yano/All right reserved.

半40分には京都が最後の力をふり絞って攻め続けたが結局ゴールネットを揺らすことはできなかった。札幌のキーマンはなんといってもエジミウソン（MF）。キープ力とスピードを兼ね備えており、中盤でボールを奪ってエジミウソンにボールが渡ると、相手チームは必ず手を焼くことになる。

京都が敗れたため、三浦カズはこの試合を最後にチームを後にする。京都サポーターたちのいるスタンドへ行き最後の挨拶をファンの人たちにしていた。札幌は4回戦進出で、相手は間違いなく横浜Fマリノス。スター軍団が相手となるがチャンピオンシップで敗れ、13日に3回戦をこなすハードなスケジュールなだけに、豊富な運動量とプレスの効いた守備を持ってぶつかれば勝機は十分あるだろう。■

コンサドーレ札幌のキーマンは、エジミウソン。キープカとスピードを生かして前線にボールを運ぶ。

京都で最後の試合となった三浦カズ。有終ゴールは決められなかったが、ファンに最後の挨拶をする。

第８０回天皇杯　３回戦（１２月１０日　西京極競技場）

| 京都　（Ｊ１）パープルサンガ | | コンサドーレ札幌　（Ｊ２） |
|---|---|---|
| 0 | 前半 | 1 |
| 0 | 後半 | 0 |
| 0 | TOTAL | 1 |
| | | 前半２分：森 |

## 他会場の試合結果

Ｊ１チームが参加する３回戦は、各試合とも順当な勝ち上がり。しかし、ＦＣ東京がＪ２最下位の水戸ホーリーホックに敗れる波乱があった。チャンピオンシップに出場の横浜Ｆマリノスと鹿島、そしてアジアスーパーカップに出場の清水は13日のゲームを行った。

### 12月10日

ヴェルディー川崎２＝１アルビレックス新潟
ジュビロ磐田　５＝０愛知学院大学
名古屋グランパス３＝２湘南ベルマーレ
ガンバ大阪　４＝１大分トリニータ
サンフレッチェ広島７＝０水戸ホーリーホック
柏レイソル　２＝１本田技研
アビスパ福岡　４＝２大宮アルディージャ
ジェフ市原　１＝０栃木ＳＣ
ヴァンボーレ甲府１＝０ＦＣ東京
ヴィッセル神戸　２＝１ジャトコ
浦和レッズ　２＝０川崎フロンターレ
セレッソ大阪　２＝１大塚製薬

### 12月13日

横浜Ｆマリノス　２＝０福岡大学
鹿島アントラーズ２＝１サガン鳥栖
清水エスパルス　３＝０デンソー


Copy right(c)2000-2001:Kazuhide Yano/All right reserved.

Ｊリーグ得点王となり、20日の日韓戦代表メンバーにも選ばれたゴン。気分はノリノリでこの試合に挑む。しかし、気合いが入れば入るほどシュートの行く先が定まらないのもこの選手の特長。はたして、代表復活記念ゴールでジュビロの準々決勝進出を演出できるか。もう一つ楽しみなのが名波のプレー。セリエＡ・ベネチアでは出場機会も少なく不満の残る昨シーズンだったが、アジアカップＭＶＰとなった彼のプレーは確実に進化していた。セットプレー、ピンポイントに入るクロス、そしてチームをコントロールするリーダーシップと今回最も注目したいプレイヤーである。

## Round 4

名古屋はベテランと若手がなかなかうまく噛み合わない。元代表選手が名を連ねるが、Ｊリーグでも結果に結びつかなかった。まだまだストイコビッチへの依存度が高いままである。今シーズン限りでの引退を表明していたピクシーだったが、そんなチーム事情もあってフロントからの熱烈な要請で引退を撤回しもう１シーズン、プレーを続けることになった。今大会はディフェンディングチャンピオンの名古屋だが、３回戦の湘南戦での苦戦を見ても連続Ｖへの道は険しい。

試合の方は、前半から磐田の一方的な展開。特に中盤での攻防に歴然とした差が見られた。磐田はフォワードも参加する組織的なプレスで名古屋にボール回しを許さない。たまにストイコビッチからのパスでチャンスが生まれる程度。一方、名古屋はマークが甘く名波や藤田、服部がやりたい放題。前線の中山や川口にどんどんボールがフィードされる。それでも、シュートがポストに当たったり楢崎の好セーブなどで前半は０＝０で折り返した。

試合が動いたのは後半。12分に磐田／川口がエリア内で倒されＰＫを取る。これを服部が冷静に決めて１点先取。この後、

4回戦　12月17日　名古屋・瑞穂競技場

# ジュビロ・磐田
*-Jubiro Iwata-*

## VS 名古屋・グランパスエイト
*-Nagoya Granpaseight-*

Ｊリーグ得点王となり、２０日の日韓戦代表メンバーにも選ばれたゴン。気分はノリノリでこの試合に挑む。しかし、気合いが入れば入るほどシュートの行く先が定まらないのもこの選手の特長。はたして、代表復活記念ゴールでジュビロの準々決勝進出を演出できるか。

Copy right(c)2000-2001:Kazuhide Yano/All right reserved.

名古屋はストイコビッチを交代で引っ込めたため、ますます攻め手がなくなった。そして24分名波～ゴンのホットラインがつながった。右斜め45度の絶好の位置からセットプレー。名波の柔らかいボールがゴールポスト・ファーサイドへ。楢崎が動くに動けないところに飛び込んできたのが中山。ピタリとヘッドで合わせて勝利を確実にする2点目をゲットした。

今日のジュビロを見る限りチームの状態はかなりいい。準々決勝の相手はリーグ2ndステージ最終戦で叩きのめしたガンバ大阪との対戦（仙台）で、この調子でいけば準決勝（横浜）は鹿島×磐田となりそうだ。J

中盤のマークが甘く、名波をはじめ厚い中盤からフリーでパス出し。ツートップの中山／川口に多くのパスがフィードされた。

名古屋はまだまだストイコビッチへの依存度が高い。後半に交代して以降、攻め手はほとんどなくなってしまった。

リーグ発足後初のシーズン3冠を目指す鹿島アントラーズにとっても手強い相手となるにちがいない。

ところで、今週12月20日水曜日には日韓戦（放送：TBS系）があるが、なぜ天皇杯のさなかにこんな日程を入れるのかはなはだ疑問である。各クラブチームからすればまったく迷惑なスケジュールで、選手サイドも疲労がたまっているため満足なプレーができずフラストレーションが残るだろう。まして日韓両チームとも主力選手はアジアカップの後、天皇杯を戦っているだけになおさらである。各チームの関係者・サポーターは、勝敗よりも所属選手がケガをしないことだけを祈る試合になりそうだ。

第８０回天皇杯　４回戦（１２月１７日　瑞穂競技場）

| ジュビロ磐田 | | 名古屋グランパスエイト |
|---|---|---|
| 0 | 前半 | 0 |
| 2 | 後半 | 0 |
| 2 | TOTAL | 0 |
| 後半12分：服部(PK)<br>後半24分：中山 | | |

## 他会場の試合結果

4回戦にはJ2から3チーム（浦和・札幌・甲府）が勝ち残ったが、3チームともあえなくここで姿を消した。ガンバ大阪×柏レイソル戦は延長でも決着がつかずPK戦に。そしてそのPK戦が10人目で決着が付く熱戦だった。

**12月17日**

横浜Fマリノス　2＝1　コンサドーレ札幌
鹿島アントラーズ2＝0　ベルディ川崎
ガンバ大阪　2（10PK9）2　柏レイソル
清水エスパルス　1＝0　アビスパ福岡
ジェフ市原　3＝1　ヴァンボーレ甲府
ヴィッセル神戸　1＝0　サンフレッチェ広島
セレッソ大阪　4＝1　浦和レッズ

Copy right(c)2000-2001:Kazuhide Yano/All right reserved.

準々決勝　12月23日　熊本県民総合運動公園競技場

# セレッソ・大阪
-Cerezo Osaka-

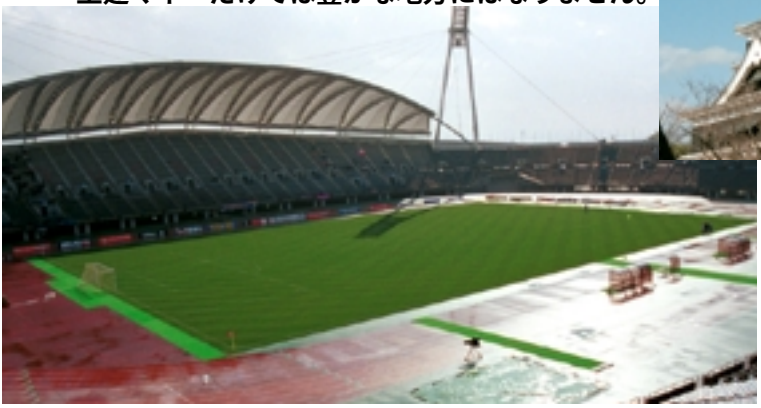
VS

# ヴィッセル・神戸
-Vissel Kobe-

天皇杯準々決勝は４試合とも地方開催。熊本、丸亀（清水×市原）、鳥取（横浜マ×鹿島）、仙台（ガ大阪×磐田）で行われる。出場チームはＪ優勝チーム、苦杯をなめたチーム、残留争い生き残りチームとバラエティーにとんでいるが、そんな中で熊本のヴィッセル神戸×セレッソ大阪戦をとりあげる。

熊本の会場だがこんなに立派なスタジアムがあるとは知らなかった。愛称はＫＫウイングと言うらしく、昨年の火のくに国体が開催されたときにできたスタジアムでメイン・バックスタンドとも屋根付きの競技場。大阪・長居スタジアムの小型版といった感じである。ピッチも全面緑一色で状態は申し分なし。とハード面はバッチリなんだが、客入りはかなり寂しく２５００人。確かに両チームともスター選手はいないが、直接プロのサッカーを見ることができる機会が少ない地方にあって、この数字は少なすぎ。自治体や教育関係などでもっと協力してチケットを売らないとすばらしいスタジアムも宝の持ち腐れに

立派な熊本のスタジアム。宝の持ち腐れにならないようイベント運営にも金を回して欲しいもの。土建マネーだけでは豊かな地方にはなりません。



熊本といえば熊本城。１５時キックオフだったので午前中は熊本市内を観光できた。

なってしまう。

さて今日の対戦だが、残留争いになんとか勝ち残った神戸と１ｓｔステージに優勝まであと一歩だったセレッソ大阪。したがってセレッソの方がチーム力が上かというとそうではない。西澤がエスパニョールへレンタル移籍。森島はアジアカップ以降、疲労回復が思わしくなくベンチ入りすらできない。ノ・ジュンユンも同様でスタメン出場は無理ときている。したがって攻め手は少なく、ユン・ジョンファンと長身１９０㎝ＦＷ上村のコンビで相手ゴールをこじあけるしかない。

一方の神戸。戦力はＪリーグで続けていたメンバーがそのまま出場している。ＭＦハ・ソッチュのサイド攻撃を起点に相手陣内に攻め込む。チームは今シーズン後、大リストラの予定でハ・ソッチュ、黒崎などベテラン勢が退団の予定。したがってこれらの選手は、来シーズンの移籍先を有利に決めるためにも結果が欲しいところで、なんとしても元日決戦まで残りたいところだ。

Quarter Final

キックオフ後は、セレッソがペースを握っていい感じで攻めていたが先制したのは神戸。セレッソＤＦのキープするボールを限りなく反則に近いタックルで相手ゴール付近でボールを奪い決定的チャンスを作る。前半13分茂原がシュートを決めてまず先制。これでセレッソはバタバタし始め攻撃がままならない。とくに若手ＦＷ杉本の動きにメリハリがなくチャンスをつくれない。そうこうしているうちに神戸が32分右コーナーキックからのボールを松尾がゴールを決めて２＝０とする。セレッソはますます苦しくなったが44分ユン・ジョンファンが右サイド・センターライン近くからいきなりシュート。ゴールキーパーが出ていたのを見極めてのものでボールは放物線を描いてゴール


Copy right(c)2000-2001:Kazuhide Yano/All right reserved.

に吸い込まれる。これで2＝1となって前半を終了した。

後半は、FW杉本に変わりノ・ジュンユン。久々の出場で動きはさほど良く感じなかったが、それでも相手マークをはずすテクニックはさすがベテラン。なんどとなくセレッソのチャンスを演出する。そして、後半26分そのノ・ジュンユンがゴール前に切れ込み、上村にパス。この時点で勝負有り。上村はフリーでシュートして2＝2の同点とした。この後、両チームとも攻め合ったがゴールを決められず延長戦へ。延長後半は、神戸が一方的に攻める展開でVゴールのチャンスをいくつも作ったがセレッソDFが必死の粘り。完全

身長190㎝のFW上村（C大阪）。ヘディングの競り合いでは90％勝てる。しかしPKで・・・。

にゴールをとらえたシュートもゴール中のセレッソDFがクリアする場面もあった。結局Vゴールは生まれずPK合戦にもつれこむ。

PK合戦では、セレッソはノがきっちり決めた後、神戸はハ・ソッチュがキーパー下川にはじかれる。その後セレッソは鈴木、真中と決め、神戸も布部、土屋が決める。このままいってセレッソの勝利かと思ったら上村がド真ん中にボールを蹴る。それをキーパー掛川が足ではじいて同点。次の神戸・和多田は成功に対してセレッソ・田坂はゴールポストに当ててしまい失敗。これでプレッシャーのかからない状態で蹴れる長田が成功させて神

第８０回天皇杯　準々決勝（１２月２３日　熊本）

| ヴィッセル神戸 | | セレッソ大阪 |
|---|---|---|
| 2 | 前半 | 1 |
| 0 | 後半 | 1 |
| 0 | 延長 | 0 |
| 2 | TOTAL | 2 |
| 4<br>ハＸ、布部○、土屋○<br>和多田○、長田○ | ＰＫ | 3<br>ノ○、鈴木○、真中○<br>上村Ｘ、田坂Ｘ |
| 前半13分：吉村<br>後半31分：松尾 | | 前半44分：ユン<br>後半26分：上村 |

両チームとも韓国パワーが大活躍。セ大阪のユン・ジョンファン、神戸のハ・ソッチュが攻撃の起点になっていた。

戸が準決勝進出を決めた。

準決勝の対戦相手は清水エスパルス。現役代表および代表経験者が集うチーム相手で苦しい試合になりそうだが、アジアスーパーカップでサウジアラビアまで行って試合をしただけに疲労はたまっているだろう。またしてサントスや沢登のようなベテランがゲームを組み立てるだけに、終盤まで得点されずに耐えられればチャンスが出てくるかもしれない。今日のガンバ大阪×磐田戦を参考にするといいかもしれない。

**他会場の結果12月23日**

清水エスパルス　３＝１　ジェフ市原
鹿島アントラーズ１（４ＰＫ１）１　横浜マ
ガンバ大阪　　１＝０　ジュビロ磐田


Copy right(c)2000-2001:Kazuhide Yano/All right reserved.

Semi Final

Ｊリーグ史上初の３冠を狙う鹿島アントラーズ、２ｎｄステージでの雪辱をしたいガンバ大阪。鹿島×大阪は横浜国際で対戦。

昨年２ｎｄステージ優勝したが今シーズンはいいところ無く今のところ無冠の清水エスパルス。天皇杯では接戦をものにしてチーム創設以来初のベスト４で波に乗っているヴィッセル神戸。12月26日には来シーズンに三浦カズの加入が決まったばかりで、選手のモチベーションは

準決勝　12月29日　大阪・長居競技場

# 清水・エスパルス
-Shimizu Espals-

# vs

# ヴィッセル・神戸
-Vissel Kobe-

**１１月２５日から始まった天皇杯も、はや準決勝。勝ち残った４チームは鹿島アントラーズ、ガンバ大阪、清水エスパルス、ヴィッセル神戸の４チーム。　元旦決戦をめざしてもうひとガンバリだ。**

高まっている。清水×神戸は大阪・長居で対戦。今回は、この対戦を取り上げる。

清水には森岡、伊東、市川、斉藤、沢登と代表および代表経験者がずらりと揃う。そこにアレックスとサントスが加わり、まさに強力メンバー。リーグで成績が振るわなかったのが不思議なくらいである。ペリマン監督はアジアスーパーカップまでの解任が決まっていたが、新監督としてゼムノヴィッチ氏が就任している。一方の神戸にはスター選手は不在。長島選手がJリーグ最終戦で引退しており、名前の売れているのは韓国代表のハ・ソッチュと元鹿島の黒崎ぐらい。攻め手は少ないが、守り


Copy right(c)2000-2001:Kazuhide Yano/All right reserved.

を固めて粘りのサッカーでここまで来ている。この対戦では、どう見ても清水の方が「格上」である。しかし「格」通りにいかないのがトーナメントのおもしろさである。

試合はやはり清水ペース進む。左サイドではアレックス。右サイドでは市川がスピードに乗ったドリブル。中盤では伊東のキープ力、沢登のパス。DFの森岡も要所でオーバーラップし分厚い攻撃が繰り広げられる。しかし、神戸の方も持ち前の粘っこいディフェンスで決定的なチャンスは与えない。ボールを奪った後は、どうしても前掛かりになる清水DF陣のスペースをつき、攻め入る場面は多かった。ボールキープ率は清水が上回っているが、相手ゴール前にボールを運ぶ回数はほぼ互角だった。しかし両チームとも、どちらかといえば引き気味で試合を進める。一発勝負のトーナメントでは先制点が大きくものを言うだけに極端なDFのオーバーラップは見られない。得点が入らないまま試合は進み後半35分。このままいけば、またPK戦までいってしまうのでは？と思いかけたころ清水が貴重な先制点をゲット。左サイド・オリバからのクロスが伊東〜

長年、ヴィッセル神戸でプレーしてきた長谷部選手。チームがベテラン勢放出を決めており、彼もその中の一人。この試合がヴィッセルとして最後の試合となった。

横山とボールが渡りシュート。これがゴール右隅にきまった。その後、神戸は捨て身の攻撃を見せたが、清水ＤＦが完全に引いてしまう中、清水ゴールをこじ開けることはできなかった。

横浜での対戦では鹿島が延長Ｖゴール３＝２で勝利。元日の決勝戦は鹿島アントラーズ×清水エスパルスとなった。両チームとも代表および元代表選手がずらりと顔を揃えるチームだが、鹿島はケガで本調子でない選手が数多くいる。名良橋、相馬、中田、柳沢、平瀬など主力に不安をかかえる。決勝でもディフェンスに重点を置く試合運びになるだろう。それに対し清水のほうは選手が揃っている。今日の試合を見る限りでは、特にアレックスが元気なのが心強い。中盤で彼がボールをもってドリブルを始めると、まさに「飛び道具」となる。決勝は、「アレックスvs鹿島右ＤＦ」と「沢登vsビスマルク」が見所になりそうだ。

第８０回天皇杯　準決勝（１２月２９日　大阪）

| 清水エスパルス | | ヴィッセル神戸 |
|---|---|---|
| 0 | 前半 | 0 |
| 1 | 後半 | 0 |
| 1 | TOTAL | 0 |
| 後半35分：横山 | | |

第８０回天皇杯　準決勝（１２月２９日　横浜）

| 鹿島アントラーズ | | ガンバ大阪 |
|---|---|---|
| 1 | 前半 | 1 |
| 1 | 後半 | 1 |
| 1 | 延長 | 0 |
| 3 | TOTAL | 2 |
| 前半23分：中田<br>後半42分：鈴木<br>延長2分：熊谷 | | 前半11分：小島<br>後半44分：小島 |


Copy right(c)2000-2001:Kazuhide Yano/All right reserved.

決勝　2001年1月1日　東京・国立競技場

# 鹿島アントラーズ
- Kashima　Antlers -

VS

# 清水・エスパルス
- Shimizu　Espals -

２１世紀の幕開け。まさに日本晴れとなった２００１年１月１日　国立競技場。その場にふさわしい５万３千観衆が、戦いのボルテージをいっそう盛り上げる。この場に立つのは、Ｊ初の三冠（天皇杯、Ｊリーグ、ナビスコカップ）を狙う鹿島アントラーズと、２位の「定位置」から今年こそ抜け出したい清水エスパルス。両チームとも、代表レベルの選手が揃い、人気・実力とも日本の頂点にふさわしいチームだ。

天皇杯のトーナメント表では、一方は鹿島を筆頭に横浜、磐田、ガ大阪、柏などJリーグの上位組が並ぶのに対し、別のブロックでは、清水、セ大阪以外はリーグでは低迷したチームがほとんど。したがって鹿島のほうが準々決勝・PK戦（横浜）、準決勝・Vゴール（ガ大阪）と苦労して勝ちあがってきており、故障している選手も多い。決勝でも名良橋・ビスマルク・平瀬など、体調に不安を抱えて挑むことになる。これに対して清水の方は、順当に勝ち進んだといえる。準決勝の神戸戦では少し苦労したがそれでも危なげない展開。ベテランを含めた主力選手も含めて比較的いい状態で決勝に挑む。

午後1時30分鹿島サイド・清水サイド両サポーターの歓声がスタジアムにこだまする中、戦いの火蓋は切って落とされた。前半戦は静かな展開。チャンスは作るものの決定的とまでは行かない。中盤での展開は両チームとも定評のあるところだが、前線にボールがわたった後の押し上げが迫力無く、FWが苦しいシュートをして終わるのがやっと。両チームとも慎重にゲームを進める決勝らしい展開といえる。

The Final

このまま、前半を終わるのかと思ったが、あっけなく鹿島が得点する。41分に25mのところからフリーキックを取った。このとき清水が壁を整えているあいだ、小笠原がなにやら主審に言った後、ゴールへ蹴り込む。主審はプレーを止めていなかったため小笠原のゴールは認められた。したたかなプレーと言ってしまえばそれまでだが、なんとも盛り上がらない21世紀初ゴールとなってしまった。後談によると小笠原が主審にプレーを止めないようように頼んでから、蹴り込んだらしい。小笠原のプレーにケチはつかないが。言われるままオンプレーでつづけさせた主審の判断は批判の対象になる。リーグ戦のなんでもない


Copy right(c)2000-2001:Kazuhide Yano/All right reserved.

上：後半36分同点ゴールを押し込んでガッツポーズの伊藤。

上：守りに回って守りきってしまう鹿島ＤＦ陣。中心はもちろん秋田。

下：ケガで、大会を通して本調子の出ない平瀬。

下：後半21分、澤登に交代し入った平松。すばらしい動きで攻めの起点になった。

試合ならこれでもいいが、今日は天皇杯の決勝戦。その場にふさわしいジャッジというものがあるはずだ。

なんとなく釈然としない雰囲気のまま前半が終わろうとしていた。しかし勝利の女神は、清水を見捨てていなかった。後半終了寸前サントスが前線へフィードしたロングパスは、ゴールエリアへ走り込んでいたオリバにドンピシャ。ダイレクトで足に合わせるだけで、ボールはゴールネットを揺らした。これで１＝１の同点。清水はいやな雰囲気を一発で、もとに戻すことができた。

後半に入って、またもや？の

つくゴールを鹿島が決める。市川がゴールエリア内で倒れていた中、鹿島はおかまいなしに攻撃。小笠原はオフサイドに成らないことをいいことに前線にロングパスし、受けた熊谷がシュート。はね返ったところを鈴木がシュートしゴールを決めて2＝1とした。ルール上は何の問題もない。しかし、プロのサッカーが相手が倒れているのを利用して得点するのはいただけない。大きな試合であればなおさら。国際試合だったらと思うとゾッとする。

　さて、この試合での選手の出来だが、決勝戦ともなると両チームともベテランは勢いがない。特に悪かったのが清水の澤登。動きにキレがなく、得意なパスも正確さに欠けた。しかし、後半21分に澤登と交代で入った平松がいい動き。ゲームの流れは清水に大きく傾き始める。パスはつながり、相手ゴール前にボールを運ぶようになる。鹿島は必死の守り。秋田とファビアーノが、相手の攻撃を跳ね返してきたが後半36分とうとう壁を破られてしまう。平松ー横山で攻め込み、最後は伊藤が目前のゴールに蹴り込む。清水サポーターの前で、歓喜の同点ゴールとなった。

　この後は清水の押せ押せムード。終了直前にＤＦ戸田が２回目の警告で退場となったがお構いなしに攻め続ける。しかし鹿島も守りに入って守れるチーム。並のチームなら、ＤＦ陣が下がってしまい逆転を許すところだが、しっかり守りきって延長戦に突入する。

　延長前半の開始。一人少ないながら、試合の流れは清水の方に傾いていた感じがした。しかし、一瞬にして試合は決まる。小笠原がビスマルクから後方へ返す浮き玉を20ｍのダイレクトシュート。これがゴールに突き刺さった。この瞬間鹿島の天皇杯優勝、シーズン３冠が決定した。マン・オブザマッチには小笠原が選ばれた。Ｖゴールのシュートだけではなく前・後半・延長すべてに通して最も動きの良かったのがこの選手。本調子


Copy right(c)2000-2001:Kazuhide Yano/All right reserved.

メインスタンドで授与された天皇杯を掲げるアントラーズの選手達。サッカー選手として最高の瞬間である。

でない選手が多かった中で小笠原の活躍が無ければ天皇杯獲得はあり得なかっただろう。サントスはこの試合を最後に清水を去る。試合終了後、多くのファンから花束と声援を送られていた。（のちに神戸への移籍が決定した。）

■

**P・S・**

２００１年シーズンも楽しみはいっぱい。とくに文部省公認ギャンブルのサッカーくじ「ｔｏｔｏ」が始まる。各チームとも戦力の補強を進めており、多くの選手が移籍していることから勢力地図は大きく変化しそうだ。３冠の鹿島とてベテラン勢の衰えと平瀬、柳沢の伸び悩みを考えると決して安泰ではない。多くの番狂わせを予想すれば、夢の１億円当選も十分あるだけに、今年もサッカーから目を離せそうにない。

# THE 80th EMPEROR'S CUP

# T H E E N D

Copy right(c)2000-2001:Kazuhide Yano/All right reserved.